

3/24 当局 団体交渉否定 陳謝 発言(3/21 保線課長)を

運輸保安確立へ さらに闘いを強化しよう

「勤労千葉が線路問題にとやかくいうな」との当局・保線課長の団体交渉否定発言をめぐって中断していた交渉は、当局・保線課長が全面的に謝罪し、勤労千葉の運輸保安要求に明確な回答と改善の努力、「線区徐行解除」について引き続き協議することを確認したことにより再開しました。

絶対に許せぬ暴言

三月二日に行われた「申第4号」―運輸保安に関する二回目の団体交渉の席上、当局は「線路関係の論議は終わった」として「59年4月1日以降線区徐行解除」を一方向的に通告しようとした。運輸保安確立の立場から、線路改善を要求した勤労千葉の申し入れにまともに答えようとしな

ばかりか、二度の列車転覆という乗務員の生命を脅かす事故に対して運輸保安闘争に決起し、長く苦しいスピードダウンの闘いを通して「最高速度制限」の労使確認をかちとってきた経過を無視するものです。

このような暴挙に怒り、抗議するのは当然のことです。

ところが、当局・保線課長は無責任にも「悪くならたら再度徐行すればいい」などと発言し、勤労千葉の追及に対して「一度答えたものは二度と

答える必要はない」とか、「乗務員は定時、定速で走るのが使命だ」とか、はては「勤労千葉が線路問題にとやかくいうのは勉強不足だ」との暴言をはいたのです。

当局・保線課長の発言は、労使確認の経緯を無視したことにとどまらず、団体交渉そのものを否定する暴言であり、直ちに交渉を打ち切ったことはあまりにも当然です。

「線区徐行解除」は引き続き協議

当局は、三日後の三月二四日の団体交渉の冒頭、保線課長が団交否定発言を全面的に謝罪すると同時に、今後運輸保安要求にきちっと回答し改善につとめること、「59年4月1日以降線区徐行解除」について引き続き協議することを約束しました。

勤労千葉はこれを確認すると同時に、今後とも運輸保安の確保のために全力で取り組む決意をあらためて明らかにし、団体交渉を再開しました。



インコンも、新小岩支部で退職者激励会

三月二日、新小岩支部は「八三年度勇退者激励会」を組合員七五名の参加のもと、小岩の養老の瀧において盛大に開催しました。

四〇有余年もの間、激動の国鉄生活を無事勤められ、仕事に組合運動にとわれわれを指導して下さい、このたび退職される七名の先輩に対し、松崎支部長、松本乗務員分科会長より感謝と激励のことばと、支部発展のために今後とも団結して闘うとの決意をこめたあ

いさつが述べられました。勇退者を代表して八木泰典氏より、思い出と感謝をこめたあいさつがあり、記念品の贈呈の後、高石氏の音頭により乾杯しました。

勇退者を囲んでの思い出話に時のたつのも忘れ、酒も入り自慢の歌も出て激励会も最高潮となる中で、いよいよ別れの時は「星影のワルツ」のメロディが流れる中、一人一人胸上げをしておひらきとなりました。